

44

大分県

再興「わがJA」

J A おおいた

牧 恭也
まき みつなり

再興「わがJA」

～ アクティブ・メンバーシップの
再構築による農産事業の活性化～

大分県農業協同組合
牧 恭也



I. はじめに

地域
本部

地域
本部

地域
本部

組合員と
直接対話
する機会が
多かった

しかし、

- ▲ 店舗統廃合・施設集約→応援は減
- ▲ 職員減→業務量増加など組合員と直接対話する機会は減、対応にも変化…
- ▲ 正組合員減・他社競合→農産事業利用者も減

JAは
取引先！

組合員は
顧客！



組合員

関係の薄れ



JA

組合員との関係性・組合員のJAへの
関心を再興する為に今回の提案を行う

Ⅱ. 現状分析

(1) JAおおいたの実態

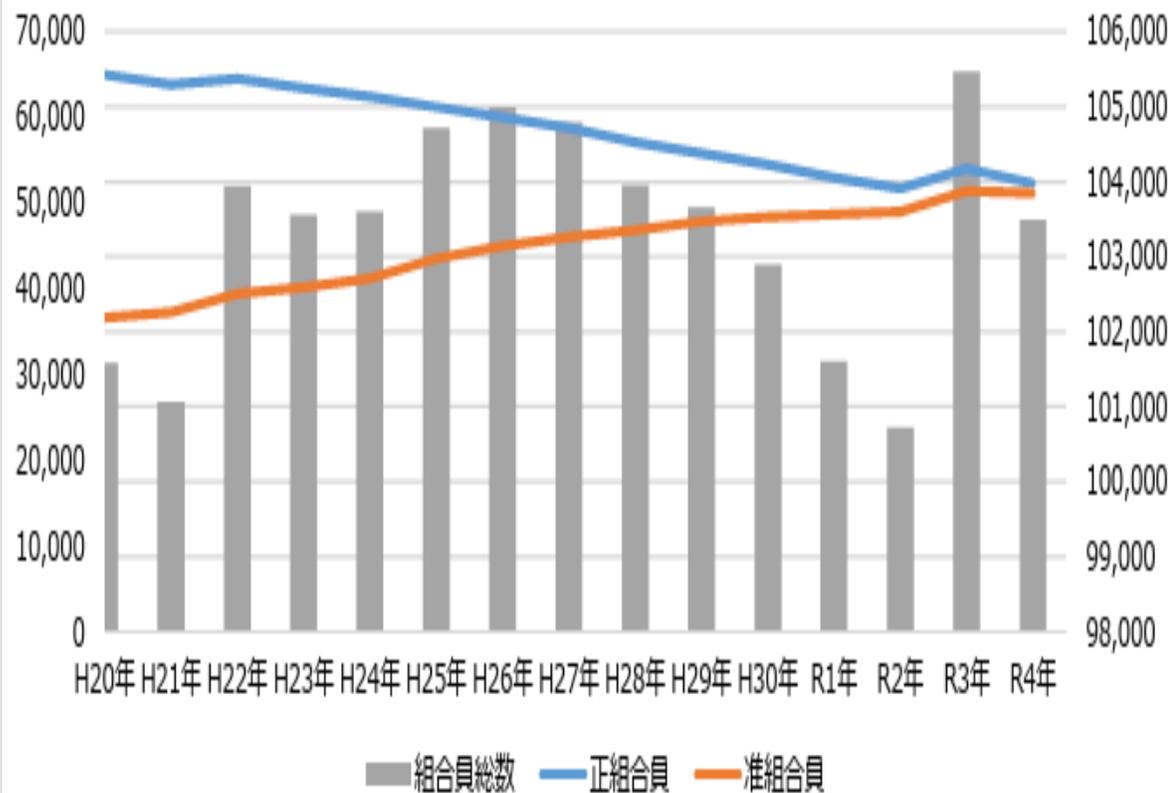
SWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み	弱み (W)
	スケールメリットによる共同販売	正組合員の高齢化による減少
	組合員の結集	施設統廃合に伴う利用者減少
	専門的営農指導	組合員のJA離れ・関係希薄化
外部環境	機会 (O)	脅威 (T)
	食への意識向上 (地産地消)	一般農家運営のRC
	地域農業への支援	地域農業の衰退
	インボイス制度の導入	競合他社の存在
	情報化による生産性の向上	不祥事等による農協への風当たり

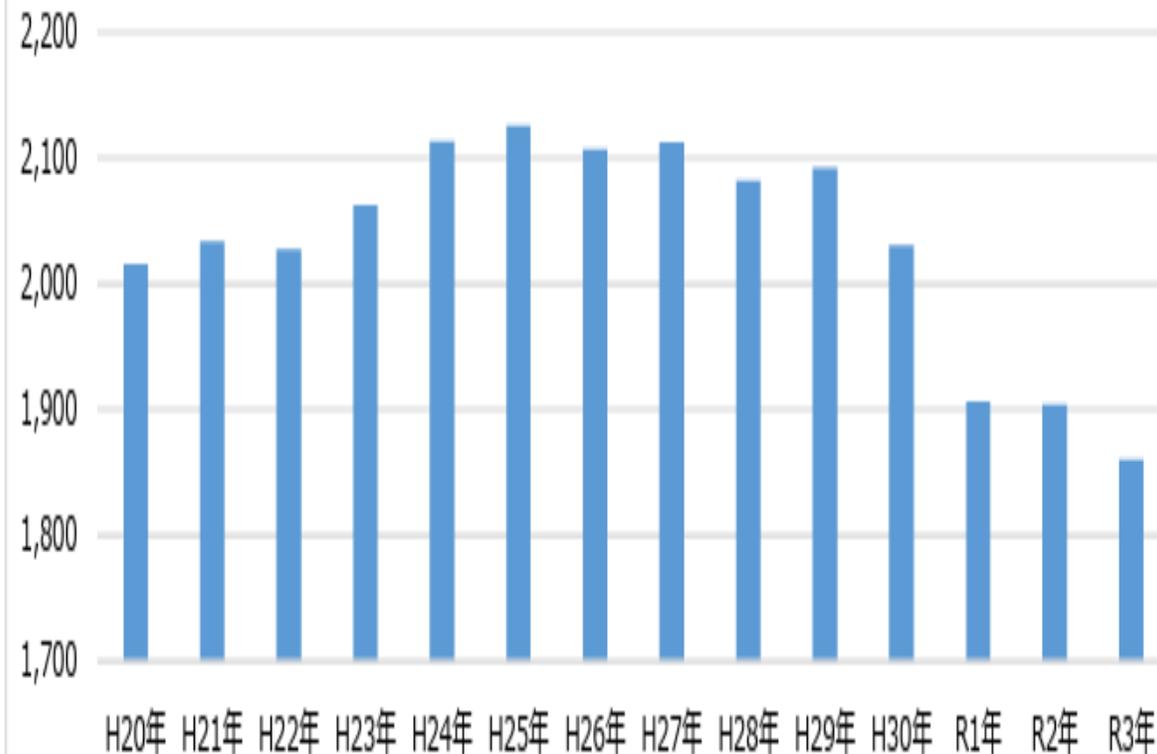
クロスSWOT分析

		内部環境	
		強み	弱み (W)
外部環境	機会	強み×機会	弱み×機会
	脅威	強み×脅威	弱み×脅威
		専門的知識を活かした地域農業への支援	インボイス制度導入を活かし米の集荷率向上
		スケールメリットを発揮した共同販売により競合他社に対抗	組合員との関係希薄化を理解し施設利用者減少を低減

組合員数の推移



職員数の推移



- ▲ 組合員→増加、正組合員→約80%
- ▲ 正組合員の減少→農業に関する事業量が減

- ▲ 合併時と比較し一旦増加、その後は減少
- ▲ 職員の業務量増、組合員との対話減少

(2) 施設統廃合・集約について



RC利用者数・集荷数量の推移

	平成25年	平成28年	平成30年	令和4年
利用者数 (人)	534	395	373	320
取扱数量 (袋)	58,757	48,752	40,419	37,384
出荷数量 (袋)	47,718	35,616	27,539	24,913
集荷数量 (袋)	175,361	161,311	126,251	126,346

▲ 10年前と比較すると利用者60%、
出荷については52%減少

JAのRCを利用するのではなく、地域の農家が営むRCを利用し
そのまま米自体も他の集荷業者に流れている状況

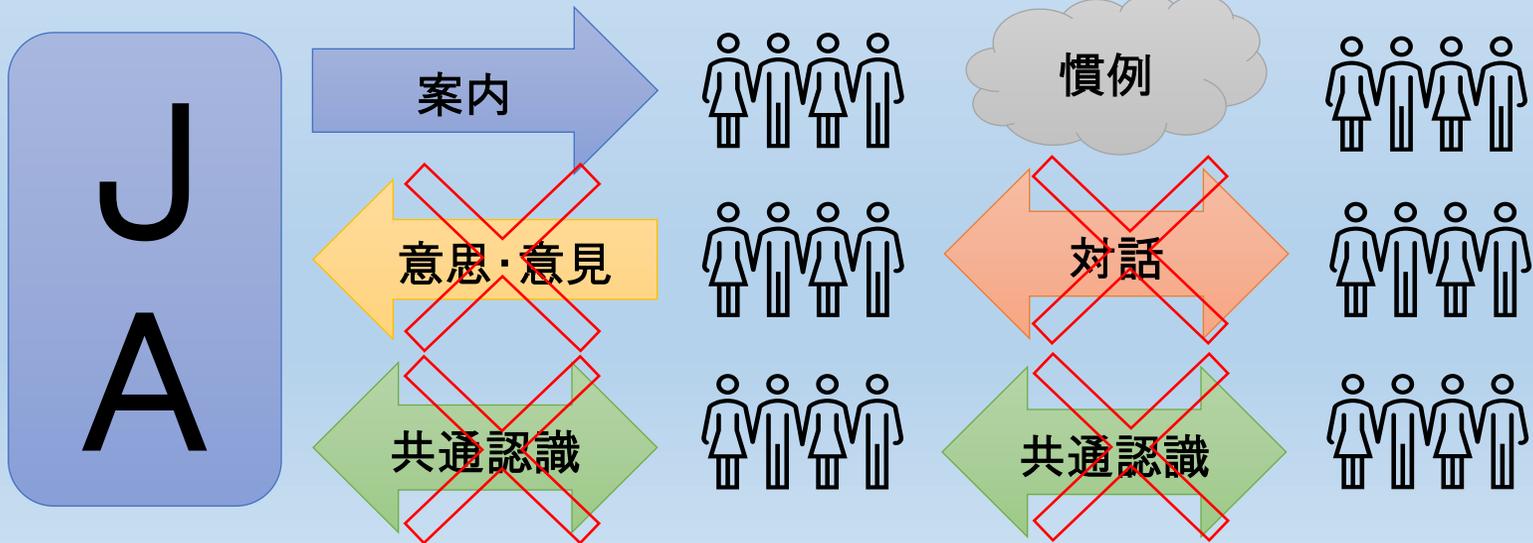
(3)RCの利用実態について

《 持続可能な農業の実現 》 《 豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現 》



組合員

職員

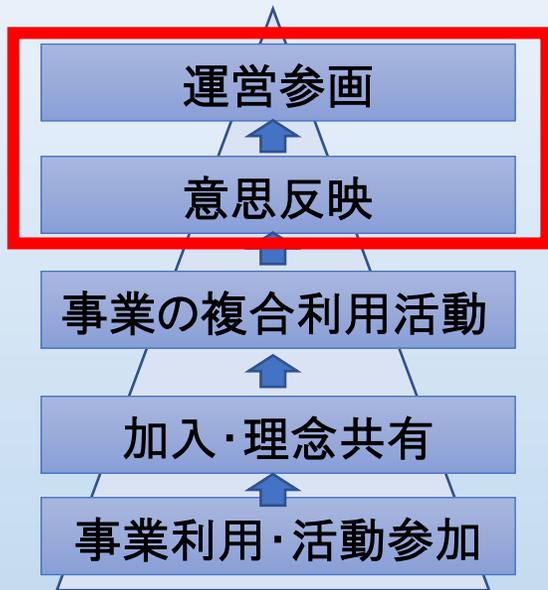


「対話・意思反映」として、出向く体制や運営委員会等の取り組みを通じて、JA運営の実現に取り組んでいる

実際はトラブルばかり...

Ⅲ.課題

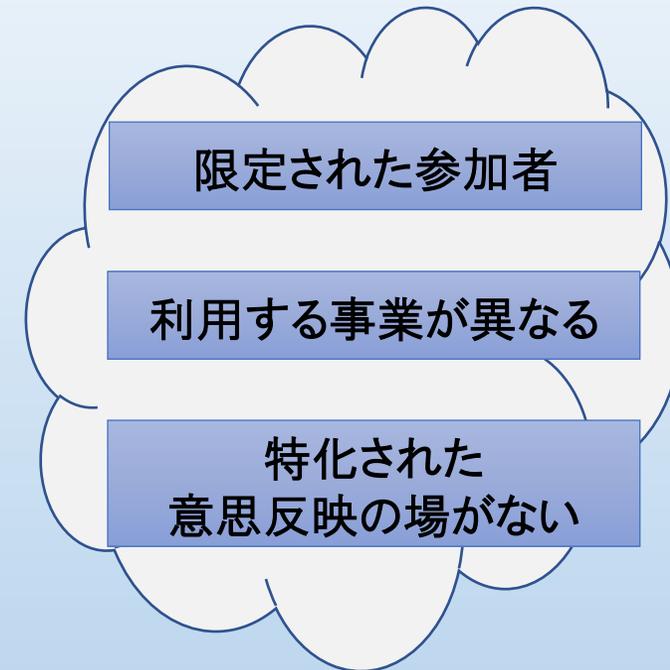
JA運営へのステップアップイメージ



JAおおいたにおける
「アクティブ・メンバーシップ」の確立実績

- ・TACによる農家訪問
- ・運営委員会
- ・准組合員運営参画協議会
- ・女性組織活動
- ・青年組織設置の検討に向けた活動

...>>



弱み (W)	脅威 (T)
正組合員の高齢化による減少	地域農業の衰退
施設統廃合に伴う 利用者減少	一般農家運営のRC
組合員のJA離れ・関係希薄化	農協への風当たり
低い米の集荷率	競合他社の存在

※SWOT分析より



IV.改革提案

「組合員との対話不足解消・意思反映・運営参画の為、
JAおおいたの各ライスセンターに施設運営委員会の設置」

概要

運営委員会設置までのステップ

①RCの現状認識

▶ 施設・作業工程の見学を行い、実態を再度認識する
アンケート調査を行い意見を取り纏める

②各地区での座談会

▶ 小規模で行うことで個々の意見を反映させる
運営状況を共有し共通の認識となるまで繰り返し行う

③組合員教育

▶ 協同組合の歴史や原則・研修等を行い、意識水準を高める
協同組合の目的と理念を身につけ、実行する力をつける

④運営委員会の設置

▶ 運営委員会を設置し、施設のルール・利用料等の設定を行う
組合員の意見を反映させることで、効率的かつ適切な運営となる

⑤組合員による施設の操業

▶ 組合員自ら当該施設の運営を行う
職員は配置せず、業務委託とする

VI. 想定される効果

組合員教育

意識水準

組織運営能力

参加意欲

コミュニケーション
技術

向上↑

活動

+

運営

+

意思
反映

わが
JA

事業
利用

利用者1人当たりの利用収益・出荷数量の算出額
(1袋当たりの利用料平均単価を1,200円とする)

	令和4年	一人当たりの平均値	
利用者数 (人)	320	出来高	117袋
取扱数量 (袋)	37,384	出荷割合	66%
出荷数量 (袋)	24,913	出荷数量	77袋

- ▲ 1人増→
事業収益140千円・集荷量77袋増
- ▲ 107名が再度利用→
事業収益15,023千円・集荷量8,239袋増

職員の長時間労働の是正・他業務へのシフト

現状は…

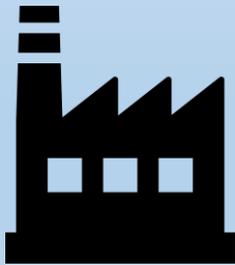


○業務委託費（固定額月20万・出来高 \times 5円）と仮定し安心院RCを例に効果を想定（単位：千円）

事業収益	事業費用	総利益	人件費	減価償却費	その他管理費	事業管理費	事業利益
38,508	16,730	21,778	4,170	7,802	2,128	14,100	7,678

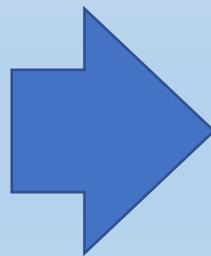
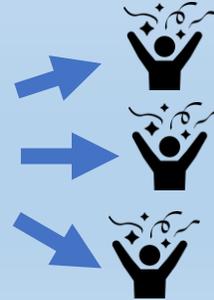
固定額40万円 + 出来高3,724千円 = 4,124千円となり人件費（4,170千円）と比較して遜色のない費用支出

RCの操業



業務委託

米の集荷推進など



職員の健康状態・
ワークライフバランスの改善
生産性・モチベーションの向上

長時間労働の減少・適切な労務管理を行う

VI.おわりに

組合員＝経営者＝利用者

事業

活動

意思反映

「わがJA」
意識の再興

令和8年度の稼働開始に向け新たな施設の建設が計画されています。
新たな施設において今回提案のもと運営実現を目指します！